明星中学校プラン　　学ぶ力･つながる力･やり抜く力
徹底すること　～　あいさつ･自学･そうじ

チーム明星

【第１３号】
平成 29 年 3 月 8 日（水）
明星中学校長　江田　昭彦

☆３学期に生徒のみなさんたちと、先生たちと、一緒になって、力をあわせて、がんばってきたことについて。
～見つめよう自分・見つめよう学級～

１　全員がそろって生活するクラスを創っていこう。

全員がそろって生活することができるクラスをつくること
・・・一番の願いです。

なにか、自分にできること、クラスでできること、を考えて、行動に移して欲しいと思います。

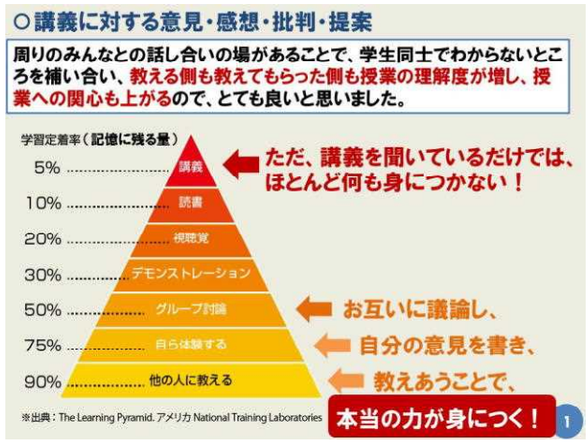
何よりも、大切なことは、気持ちが伝わるということだと思います。友だち本人やお母さんお父さんたちに、「ああ友だちや先生たちは、自分たちのことを、思ってくれているんだな」という実感をもってもらえるような学校に…。これが一番大切なことだと考えます。

２　「アクティブ･ラーニング」授業＆自学で、必ず、学力Ｕｐ！

チャレンジ学習塾、「友」学習をはじめとして、職員室前の廊下や教室で、土日や、早朝、放課後なども含め、努力する姿。

この気持ちを、授業の中でも、さらに、活かして欲しいと思います。

「アクティブ・ラーニング」（主体的･対話的で深い学び）
～自分から、仲間と一緒に、深く学んでいくこと。

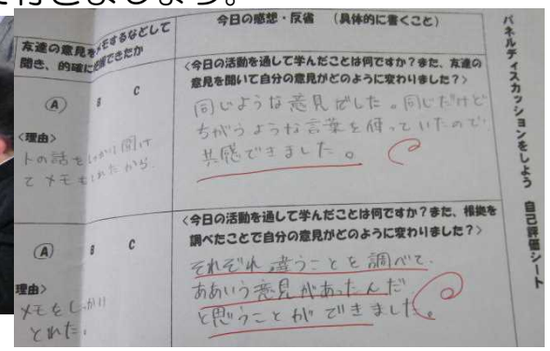


伊藤嘉高（医療社会学）

「ともだちに教えること」は、同時に、一番「自分が確かに理解できること」であり、「友だちも分かるようになる」ということなのです。

友だちにおしえること。教えてもらうこと。お互いにとってこんなに良いことはない、ということです。

「教えること。教えてもらうこと。」
「みんなの力で、みんながわかる」授業へ。
ぜひ、クラス全員で本気で実践して行きましょう。



３　自分に正直に向き合い、次へのバネにしよう。

課題は、乗り越え、成長していくためにある。学年集会、時には他の先生が教室に入り、伝えられた言葉や思い…。しっかり思い出して、その思いをうけとめて。

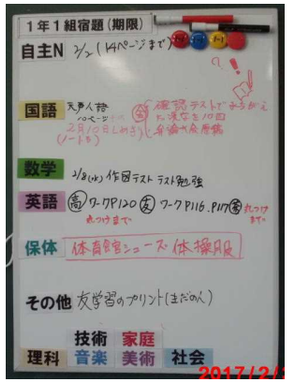
次の学年や次の学校生活につなごう！

３年生、受験は団体戦。力を合わせて最後まで全員で進路獲得に集中していこう。

１･２年生、今は次学年への準備、大詰めの段階。逃げずに、課題に向き合い、みんなが力を合わせて乗り越えていきましょう。

☆チャレンジ学習塾

☆宿題ボード



☆第３回地域学校協議会(学校関係者評価)開催　2月23日

【明星中学校プラン】

○わかる授業

・市指定研究テーマのもと、全職員で公開授業を行い、交流活動を位置づけた授業づくりと自主学習力の育成をを通して、確かな学力の保障と向上を図る。
・合理的配慮、ユニバーサルデザインの授業づくりによる学力の保障と向上。ＩＣＴの活用によるコミュニケーションスキルの向上。
・ノー部活デーを生かした補習システムの確立と宿題・予習のシステム化。

○たのしい学校

・学校いじめ防止基本方針、福岡アクション３等に基づくいじめ･不登校問題の解消。
・担任、副担任、専任補導、部活顧問、ＳＣ、ＳＳＷ、主任児童員等との連携強化。
・専任補導・担任を中心に生徒の人間関係の把握（定期、随時）。　・部活動やボランティア活動への参加奨励。

○久留米版コミュニティスクールの推進(学校･家庭･地域との協働)

・保護者の協力のもと、定期考査前に明星セルフスタディー Week(家庭学習定着週間）を設け、チェックシートを活用する。
・明星チャレンジ塾（放課後学習サポート）や友学習（放課後、教室での学び合い学習）の定着と宿題・予習と評価との関連づけを行う。
・ＰＴＡ生活委員会、おやじの会 with おふくろ、校区青少協、生徒会生活委員会との協働による挨拶運動の実施。

○体力･食育

・保健体育の授業で、上体起こし(筋持久力)向上のための補強運動等を行う。『めざせ！筋持久力 Up』(「１校１取組」運動)。「体力アップシート」活用率 100 %。
・ＰＴＡ活動と連動させて「市食育啓発促進事業」にとりくみ、朝食の摂取率を高める。

【学校への提言･意見】

- 個人の学力の分析結果を子どもたちに説明して渡してもらっているが、子ども本人の受け取り方が、「へーそうか…」で終わっている場合が見受けられる。もったいないので、しっかりと生かすことができるためのさらなる工夫が必要。
- 学校全体がとても落ち着きみんなが学習に向かっている雰囲気がある。行事や部活、そして地域のボランティアにも一生懸命とりくむ姿がうれしい。
- 不登校の子どもたちを減らしていくために、それぞれの子ども達の個別の状況の把握をして、校内適応指導教室などの場を、さらに活かしてほしい。

【家庭･地域への提言･意見】

- ラインやスマホ等の小学生からの長時間の使用で、読む・書くなどの本当の力がなくなっていっているのではいかと心配している。
- あいさつや朝ご飯などの食生活、スマホ等のルールについては、第１義的には家庭の課題と思われる。学校教育やＰＴＡ活動での啓発なども充実させながらも、各地域で保護者への働きかけも必要である。
- 「ふれあい食堂」のとりくみを、地域や社会福祉協議会で進めていて、準備したカレーや丼などすぐに売り切れるほど多くの参加があっている。最近は中学生も来てくれた。
- 「敬老会」にボランティアで参加する中学生の姿に、元気をもらっている。ありがとうと言いたい。